

『Mind Charging』

第 230 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 3 月 8 日

葉加瀬太郎の名言



やっぱり自分の両親の世代の日本人と、僕らの世代が感じてきた文化体験は全く違うものだと思うわけです。

今回の言葉は大変考えさせられるメッセージだと思います。実は、この言葉を取り上げるきっかけとなった言葉がありますので紹介します。“年を取ったら時代と共に変わる価値観に上書きしていくことがしんどくなってきた。今の時代を息苦しく感じたりする。だけど若者から見たら俺たちの時代に言われた『男らしく』『女らしく』なんて価値観こそ息苦しいよな。若い頃は何を手に入れるか、年取ったら何を捨てるか。生き方自体を変えるんだなど実感。” というものです。

私のこれまでの人生を振り返っても今ほど時代の流れの速さを感じたことはなく、次々にルールが上書きされていくように感じています。先人たちの努力によって受け継がれてきた“おかげ”で今の私たちがあることへの自覚は持っているつもりです。これまでも、その都度入ってくる新たな情報を取り入れながら様々な試行錯誤を経て今のスタイルが構築されてきているわけですから、言ってみればこれまでの時代におけるスタイルのどこを切り取っても“暫定的”であり、昨今の流れも 10 年後には通用しないことも予想されます。そういう意味では、何のアップデートもされない状況の方がむしろ不安に感じるべきではないでしょうか。時代の流れが加速した原因の一つが『紙(本)→スマホ』が挙げられます。紙(本)の内容は上書きされることがありませんがスマホは内容もスマホ自体の機能も上書きされ、最新情報の広がるスピードが格段に上がったからだと考えます。

今まで信じていた考えを“捨てる”という意味は、今までの自分を否定することではなく、経験を踏まえてアップデートすることだと私は思っています。古いものに価値が高く評価されるバイオリンを扱い、トレンド(新しさ)が大きく影響する音楽の世界に生きる葉加瀬さんに今回はとても有意義な勉強をさせていただいたと思います。(編集委員：入試広報室 鈴木)

葉加瀬 太郎(はかせ たろう、1968 年 1 月 23 日 -)は、日本のヴァイオリニスト、ミュージシャンである。本名は高田 太郎(たかた たろう)。旧姓は葉加瀬。ハッツマネージメント所属。レーベルは自身が音楽監督を務める HATS UNLIMITED。妻はタレントの高田万由子。作曲家の高井達雄とは遠い親戚に当たる(血の繋がりはない)。身長 178cm。代表作は「情熱大陸」。大阪府吹田市生まれ。2017 年現在はロンドン在住。(Wikipedia 参照)